

## 1 学校教育目標

かしこく やさしく 元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の知を高める学校（学力の定着、学ぶ意欲の向上）</li> <li>・子供の徳を深める学校（思いやりの心、自他を尊重する心の醸成）</li> <li>・子供の体力を高める学校（健康な心と体の育成）</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かしこい子（めあてをもち、すすんで学習する子）</li> <li>・やさしい子（自分と周りの人を大切にする子）</li> <li>・元気な子（運動を好み、楽しむ子）</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解と自己研鑽に努め、児童の成長に全力を注ぐ教師</li> <li>・組織の一員としての自覚をもち、協力して職務を遂行する教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1. 学校の現状

今年度創立 119 年を迎える、歴史と伝統ある学校で現在は通常学級 12 学級、特別支援学級 1 学級の編成である。児童は学ぶことに興味をもち、真面目に取り組んでいる。一方、すすんで挨拶、自己肯定感に関しては今後の課題である。教職員は、若手教員が多い中、先輩の教員が学習指導、生活指導、校務分掌等において丁寧に指導している。保護者、地域は本校の教育活動を理解し、協力的である。開かれた学校づくり協議会や P T A を中心に、朝の見守りや長期休業中のパトロール、朝学習の丸付けや図書ボランティア、校外学習の際の付き添い等、このほかにも学校への協力を惜しまない。

### 2. 前年度の成果と課題

#### 重点的な取組事項 1 基礎学力の向上

学力の分析、補充指導を計画的に行ったが、校内研究で取り組んだ「足立スタンダード」に基づいた授業、補充指導が結果に結びつかなかった。

#### 重点的な取組事項 2 自ら正しく判断し、行動する心の育成

教員で児童の状況把握と対応策を共有した。今後は S C 等との連携を深め、いじめの全件解消、不登校傾向の児童に対する手立てを充実させていく。

#### 重点的な取組事項 3 体力向上

29 年度の年間指導計画を改善し取り組んだ結果、30 年度の投力は全校平均で、0.86m 伸びた。生活習慣は早寝早起き、むし歯の治療等に課題が残った。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の指導力向上					
3	児童の心身の育成の充実					

## 5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
既習事項の学習内容の定着		・年度末までに現学年の区調査を再度実施し、通過率を10%上げる。		12月の区調査再テストの結果(通過率)は国語89%、算数89%だった。		6月の調査再テストでは国語83%、算数82%だったのに比べて、とても上昇した。さらに徹底していく。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○ △●
1 継続	朝学習(パワーアップタイム)	全児童 国語, 算数	毎週水, 金 始業前 15分	【取組のねらい・目的 ☆方法】 ○基礎・基本の定着。 ＜国語：校内漢字検定＞ ☆前学年の漢字テスト ＜算数：さかのぼり学習＞ ☆課題別学習 ☆東京ベーシックドリル	つまずき部分の学習終了後、診断テストを実施する。	12月までに前学年の診断テストを90%の児童が合格。1月からは該当学年のつまずきに対応する。	12月再テスト結果全学年だと国語、算数ともに89%だった。2月に再テスト(現学年)を行い、国語、算数ともに83%だった。	一人一人の学習定着率が高まってきている。高学年になると定着率が下がる傾向があるので、個に応じた分析や指導の徹底を図っていく。	○
2 継続	放課後補充学習(コツコツタイム)	全児童 国語, 算数	毎週月, 火, 木, 金(25分間)	【取組のねらい・目的】 基礎・基本の定着図。朝学習での未消化問題の解消。 【方法】 ＜木・金＞前学年までのつまずきの解消。 ＜月・火＞当該学年のつまずきの解消。	定着度確認テスト(区調査の再テスト)(7月・12月・1月・2月)	12月までに実施する定着度確認テストで目標値を90%の児童が通過する。	12月の区調査再テストでは全学年平均で国語・算数ともに89%だった。2月に再テスト(現学年)を行い、国語、算数ともに83%だった。	個別指導での効果が見られた。繰り返し、積み重ねを徹底していく。	○
3 新規	ベーシックタイム	全児童 国語, 算数	各学級 1時間 /週	【取組のねらい・目的】 当該学年のつまずきの解消、既習事項の定着。 【方法】 週1時間、つまずきが見られた国語か算数の学習。	つまずき部分の学習終了後、定着度を測る。	既習事項の定着度90%以上。	その時間内の指導では、ほとんどの児童が理解をし、正解できた。	復習する時間という設定での取組が定着できた。繰り返し、積み重ねを徹底していく。	○

4 継続・改善	長期休業 学習教室	学力調査 の結果か ら抽出	夏(10 日間) 冬(2~ 3日間)	【取組のねらい・目的】 つまずきの確認、個別指導 【使用教材】復習問題集 【方法】 個に応じた復習問題集に 取り組む。	終了後、確認 テストの実施	終了後の確認 テストで対象 児童の正答率 を10%アッ プする。	8割の児童が正答率 10%アップでき た。	目標達成した児童も 含め、継続して指導 を繰り返していく。	○
5 継続・改善	家庭学習 習慣の定 着	全児童	通年	【取組のねらい・目的】 家庭学習で学習の定着と 学習習慣の確立を図る。 【方法】 家庭学習カードの提出。 毎月、提出率を算出。	家庭学習カー ド提出  提出率の算出	家庭学習提出 率80%以上。	家庭学習を提出した 割合は4月は78% だったが、5月は8 4%、6月以降は8 5%以上が続いた。	学習内容の定着と学 習習慣の確立を目的 として進めている。 家庭の協力もあるの で、これからも徹底 していく。	◎
6 継続	授業力向上	教員	随時	【取組のねらい・目的】 児童の基礎学力の定着。 【方法】 高学年教科担任制の導入。 教科指導専門員、主幹諭、 管理職による指導・助言。 主任教諭による校内OJTの 実施。朝学習等の充実。	授業観察カー ド  ブロック検討 会(1回/週)	足立スタンダ ードに基づく 授業観察カー ドにおいて、4 月当初の評価 よりもレベル を2以上上げ る。	6月の授業観察では 評価の平均9.4ポ イントだったのに対 し、10月の平均は 12.3ポイントだ った。	足立スタンダードの 形はだいぶ定着して きている。今後は指 導の質を充実させて いく。	○
7 継続	読書活動の 充実	全児童	随時	【取組のねらい・目的】 読解力を育成する。 【方法】 読書記録カードの活用。 教員、図書ボランティア 等による読み聞かせや本 の紹介を実施。	読書記録カー ド	全児童の年間 平均読書冊数 を30冊以上 とする。	12月現在、学校図 書貸出数を計算する と、一人あたり27 冊であった。年度末 には30冊以上にな る見込み。	教師やボランティア の読み聞かせ、読書 月間(年2回)など が児童の意欲付けに 効果的だった。	○
8 継続	ニュース見 つけた	5・6年生	月曜~ 金曜 クラス 内で交 代制	【取組のねらい・目的】 社会の出来事に興味をも たせ、文章に表す力を身に 付けさせる。 【方法】 各学級に毎日一紙配布し、 気になった記事の内容と 考えをまとめさせる。	記事の内容 のまとめと 自分の考えの 記述	夏までには全 員が取り組む。 秋以降は表面 的な感想では なく、詳しく自 分の思いを書 き表せるよう にする。	自分の興味・関心事 に応じて新聞記事 を読み、考えを書 くようになった。 「新聞コンクール」で 6年児童が優秀賞、 学校は優秀学校賞を 受賞した。	思考力・判断力・表 現力育成にも大きく 役立つ活動である。 さらに充実してい く。	◎

重点的な取組事項－２		教師の指導力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の各職層における資質・能力の向上		東京都OJTガイドラインによる、「教員が身に付けるべき力」の向上	若手研修やOJT研修が計画通り実施できた。	研修内容を吟味し、充実していく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手教員研修会の実施年15回</li> <li>主任教諭によるOJT研修会年10回</li> <li>校内研究の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長、副校長、主幹教諭による若手教員対象の研修会の月2回実施。</li> <li>各主任教諭による年2回ずつの校内研修会の実施。</li> <li>「足立スタンダード」型の授業を定着させるための校内研究の推進</li> </ul>	外国語や体育、理科等専門的な分野の研修が充実できた。また、ICT（タブレット）研修も計画に追加し、実施できた。特にタブレットは授業での活用が増え、児童も意欲的に取り組むようになった。	時間の設定が難しく、全員にとって十分時間確保ができたとは言えない。個人研究にゆだねる場合もあったので、短時間での研修内容を検討していく。	○
校外研修の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の区小研への教員の全員参加</li> <li>各教員年2回以上の他校の参観、研究発表会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区小研で学んだことの、レポート形式による報告。</li> <li>担当教科の研究発表会等への参加。学んだことの職員夕会、長期休業中の研修会における紹介。</li> </ul>	区小研で学んだことをレポート形式で報告することは十分できなかった。職員夕会や長期休業中の研修会で報告させた。	区小研の資料を回覧したうえで、報告するなどより効果的な報告方法を検討していく。	○

重点的な取組事項－３		児童の心身の育成の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の心と体の健全な成長		年度末の児童、保護者、地域、教員の学校評価アンケートの向上	保護者・地域の評価は肯定的なものが85%以上だった。	保護者・地域の思いを次年度の教育活動につなげていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

豊かな心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末実施の「花畑小学校のきまり」のチェックにおける、良好な結果90%</li> <li>・いじめの解消率の向上</li> <li>・Q U調査の分析を生かした学級経営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花畑小学校のきまり」の年3回のチェック実施</li> <li>・いじめアンケートの結果を基にした未然防止と早期対応</li> <li>・Q U調査の分析と共有</li> <li>・縦割り班活動を主とした異学年交流等の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花畑小のきまり」チェックでは良好な結果が6月は85%、10月は86%だった。</li> <li>・いじめについては12月時点で持ち越しや継続はなし。</li> <li>・縦割り班活動は6年生がリーダーとなり充実できた。</li> </ul>	<p>「花畑小のきまり」では廊下歩行やハンカチ・ティッシュの携帯、歯磨きなどの基本的な生活習慣が課題である。</p>	○
健康な身体の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びをする児童90%</li> <li>・運動能力調査の結果の向上</li> <li>・外部機関と連携した健康教育の授業、研修会年2回以上の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日直、生活指導部会を中心とした声掛けと、教員も加わった外遊びの実施</li> <li>・年間計画に基づいた投力向上の取組の充実</li> <li>・保健師、学校医その他を講師とした授業、研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師も進んで外遊びをしたが、全体では80%だった。</li> <li>・投力向上授業は外部講師を招いて実施できた。体力テストでは前年より0.65m上昇した。</li> <li>・健康教育の授業や研修会を計画通り実施した。</li> </ul>	<p>外遊びはまず85%を目指す。各クラスで「クラス遊びの日」を決めて取り組ませる。</p>	○
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会の開催月一回</li> <li>・特別支援教育に関する校内研修会の実施年4回</li> <li>・S C, 外部講師による研修会の実施年3回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会における支援を要する児童と家庭についての協議の実施</li> <li>・特別支援コーディネーター等による事例研修会の実施</li> <li>・特別支援等についてのスキル等をもった専門家による研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会を毎月開催し、支援を要する児童と家庭について共通理解を図った。</li> <li>・コーディネーターや専門家による研修会を実施し、特別に支援を要する児童への対応を共通理解することができた。</li> </ul>	<p>・特別支援教育にかかわらず個に応じた指導・支援が求められている。ユニバーサルデザイン的な教育を目指す。</p>	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力では、昨年度までの積み重ねの成果が少しずつ表れてきている。区調査の通過率では区平均まで上げることができた。来年度は区平均を超えることを目標とする。足立スタンダード型授業の定着に加え、思考力・判断力・表現力の向上を目指し、自力解決の時間と比較・検討の時間の充実を図る。

小中連携は連携校と相談し、分科会を教科ごとに焦点化し、小中9年間の指導の充実を目指す。また、連携日に小学校3校の公開授業を設け、ICTを活用した授業プランの交流をさらに深める。

異学年交流を重視し、健やかな心の育成を図る。縦割り班活動や兄弟学年での活動、特別支援学級との交流等を充実させる。さらに東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして「ボランティアマインド」を掲げ、「人の役に立ちたい」「貢献したい」といった自己有用感をもたせていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様・地域の皆様・開かれた学校づくり協議会には日頃からの見守り、放課後子ども教室、子どもまつり等でご尽力くださり大変感謝しております。令和2年度は創立120周年になります。子供たちにとって、保護者や地域の皆様にとってかけがえのない、心に残る一年にしたいと思います。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

・「学校大好き みんなの花畑小学校」をスローガンにみんなが学校のことが大好きになるような教育活動を目指す。

・「新聞コンクール」で児童が優秀賞、学校が優秀学校賞を受賞した。日頃から努力していることが評価された。次年度も充実させていく。